



# 全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

<https://www.alpa.or.jp/>

発行日 2022年1月4日

発行NO 2022 - 49号

## 新年あけましておめでとうございます

### 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年のお牛さんの年は「我慢」の年と言われました。

人では、新型コロナウイルス感染症の勢いはオリンピックを過ぎてまだまだ止まるところを知らず、いったいこのままどうなるのかと大いに心配していたところでした。

牛さん豚さん鶏さんのエサ価格は令和3年度になって輸入トウモロコシの値段が大きく上がって配合飼料価格も急騰し、長い間発動がなかった配合飼料の価格差補填が2期続けて出ました。第3第4四半期も出るようです。

豚さんのCSF（豚熱）もワクチン接種が進み搬出移動制限区域が設定されませんが、各地で発生しています。鶏さんの鳥インフルエンザも11月になって発生してきました。

本当に昨年は我慢の年になりました。

しかし、もう一つ、「発展の前振れ」の年とも言われていました。

これから良くなる芽が出る年だそうです。新型コロナは、秋になってなぜかわかりませんが急速に減ってきて、今年のお正月は注意しながらも例年のようなお祝いがちょっとできるようになりました。

エサも、トウモロコシ価格がいつまでも高く続いたことはないと言われています。豚熱や鳥インフルエンザも発生してもすぐ押さえ込むことができています。

今年の寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だそうです。もちろん周りの情勢が大きく変化しているのでそれに合わせて、こういふときこそ昨年芽を出した良い兆しを今年は大きく伸ばしていきたいものです。

全日畜も、変化していく社会に合わせた活動を会員の畜産経営者の皆さんのために本年も行っています。

全日畜理事長 金子春雄



(文中での団体の略称表記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）
- ・協同組合 日本飼料工業会（工業会）

- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）

## 昨年（令和3年）の全日畜活動を振り返ってみました

### ○2年に一度の社員選挙、役員の変更

第七期社員は1名を除き第六期社員の皆様が再任され、引き続き全日畜運営に携わっていただきました。

### ○「JRA事業 農畜連携調査事業」が始まりました

令和3年度新規で、畜産経営者と稲作等農業経営者の連携が確立された背景、課題とその解決方法、将来の持続可能性を分析して「農畜連携指針」にまとめ、食料自給率の向上と畜産経営の安定化に役立てることを目的とした調査事業。連携して地域資源を有効に活用できる方策を考える事業です。

新型コロナウイルス禍の中、幸いにも計画していた3地域でのワークショップを、参加者を最小限に限定して集合型で実施できました。



(9/10 千葉会場)



(11/25 山口会場)

### ○「自然災害の実態調査」はWebで開催

まだ新型コロナによる緊急宣言下であったため、広島、北海道の2会場のワークショップはWeb会議で実施しました。



(10/21広島会場)



(10/27北海道会場)



(11/12 青森会場(七戸)畜産グループ)



(12/8 青森会場(青森)稲作グループ)

### ○工業会と共催でパネルディスカッションを開催 (Web)

11月19日(金)に工業会と全日畜との共催で、「スマート畜産技術は日本の畜産を救うのか?!」をテーマにWeb配信によるパネルディスカッションを開催しました。小谷あゆみさんをモデレーターに、パネリストは池口宇都宮大学教授、酪農経営者の津久井さん、養豚経営者の菅谷さん、そして全日畜の神谷専門員の4名で、100名を超える視聴者がありました。ディスカッションの中で当協会がJRA事業で実施したスマート畜産の調査結果も活用され盛況でした。



(11/19 配信の様子です)

### ○全日畜事務所が工業会事務所内に移転

工業会のご厚意により8月16日に工業会の一室に移転しました

これにより、工業会と全日畜との連携を一層緊密に取れるようになりました

(文中での団体の略称表記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)